



メキシコ・米国における豚インフルエンザウイルスの人への感染

WHOからメキシコでインフルエンザ様の症状を示す比較的重い呼吸器疾患が流行している、米国においても人の中で豚インフルエンザウイルスによるインフルエンザが発生しているという情報がありました。

このことを受けて、厚生労働省では、流行地に渡航する人への注意喚起や流行地からの帰国者に対して検疫を強化しています。また、動物検疫所においても、生体の豚の輸入にあたって、必要に応じて精密検査を実施するなど、的確な対応をすることになりました。

豚インフルエンザとは

A型インフルエンザウイルス(主にH1N1・H3N2の亜型)によって発生します。豚では一過性(5～6日程度)の発熱・咳・鼻汁がみられる病気で、通常、人には感染しません。日本では、病性鑑定をした豚を対象としたサーベイランスでは特段問題となるような事例は認められていません。引き続き飼養衛生管理基準を守って豚の健康管理を行って下さい。

メキシコ・アメリカの発生状況

WHOによれば、メキシコでは人で882例のインフルエンザ様症例を確認、うち62例の死亡が報告されています。(平成21年4月24日現在) このうち18例についてH1N1亜型インフルエンザウイルスが分離され、このうち12例ではメキシコ・米国両国の患者から分離されたウイルスの遺伝子が一致しました。米国でも8例で人から人への感染が確認されています。

飼養豚に異常が見られたときは家畜保健衛生所に至急連絡して下さい。

豚肉は、食肉工場では衛生的に処理され、また、調理によりウイルスは死滅するので、豚肉を食べても感染することはありません。

